



手をあげて、  
安全確認してから渡ろうね

広報  
**たかまつ**  
2009.5.15 NO.1413

アーツフェスタたかまつ2009ほか	2・3
介護保険利用者負担額の軽減制度ほか	4・5
市営住宅入居者募集ほか	6・7
住民基本台帳一部写しの閲覧状況ほか	8・9
まちの話題・環境プラザ	10・11
情報ひろば	12~15
たかまつ古今東西	16

「右見て、左見て、もう一回右を見て」「手を上げて、注意しながら渡ります」  
4月20日(月)、屋島西小学校で1年生を対象に「親子交通教室」が開催されました。児童たちは、市の交通指導員さんに教えてもらいながら、横断歩道の歩き方を練習しました。  
交通ルールを守り、事故には気をつけましょう。



## 香西編

### 讃岐の名族 香西氏

瀬戸内海のすばらしい眺めを楽しめる五色台と勝賀山を背に海に向かって町並みが広がる香西。この町の歴史は古く、鎌倉時代、讃岐の豪族であった香西資村がこの辺りを統治したことに始まります。

その後、香西は、海が近く入り江がある土地柄や香西氏が瀬戸内海で勢力を誇った水軍を配下に治めたことなどから港町として発展していきます。特に、香西氏の全盛期であった室町時代には、アジアの国々とも貿易を行い、港には大きな商船が発着し、香西氏は多くの富を得ていたようです。

栄華を誇った香西氏も、1585年に豊臣秀吉が行った四国征伐によって、360年あまりの歴史を閉じることとなりますが、今の香西の礎を築いた名族として広く知られています。

### 向き向きの町

「香西のまちは向き向き」という有名な言葉があります。これは、香西の町の特徴を表した言葉で、香西氏の城下町

づくり由来しています。

香西氏は、城下の守りを固めるために、攻めてきた敵があたりを見渡しにくいように、細い1本の道をすぐ行き止まりにして、左右に分かれるような町を設計しました。このため、道に沿って建てられた家は、いろいろな方向を向くことになり「向き向きの町」と呼ばれるようになりました。

### 城跡残る勝賀山

香西の西部にある勝賀山。竜の背を想わせる形をした山



▲細道が入り組む香西の町並み(上)、城跡が残る勝賀山(下)

の上には、香西氏が360年間居城とした勝賀城跡が残っています。城跡には、土塁跡や井戸などが残っていて、特に土塁跡は、中世の山城の特徴をよくあらわしていて歴史的にみても貴重な資料となっています。

また、この山は眺めが、すばらしいことでも知られています。山頂付近では、目の前をさえぎるものがなく、北には青く広がる瀬戸内海、東には美しい形をした屋島、南には里山が並ぶ高松平野を、そして西には五色台の峰を仰ぎみることができ、今も昔も変わらないであろうその眺めが多くの登山客を楽しませてくれます。